第一回 花柳凜 京丹後舞踊公演

日本舞踊「花柳凜京丹後市公演」

新作舞踊
一・有涯　― 丹後七姫より ―

「静御前」「細川ガラシャ」「羽衣天女」
美しき覚悟の三姫を素踊りにて演じ分ける日本古典舞踊の真骨頂

新作舞踊劇
一・祈日月物語

「雨も、風も、すべては天の思し召しにございましょう…」
太古の時代、多くの民を救うため生贄として身を捧げた姫の物語

10/23（日）2022年
13：00 開場　14：00 開演

京都府丹後文化会館
2,500円（全席自由席・高校生以下1,000円）

お問い合わせ先
京都府丹後文化会館
住所　〒627-0012　京都府京丹後市峰山町杉谷1030番地
電話　0772-62-5200
https://www.tangobunkakaikan.jp

文化庁京都へ

日本舞踊家　花柳凜

1990年（平成2年）7月3日生まれ。曾祖母 花柳 寿花の代より続く舞踊家の家系に生まれる。祖父 花柳 稔に師事。2歳で初舞台。 16歳で名執、21歳で師範。
ベーシストKENKEN、ロックバンドサカナクションなどのアーティストとのコラボレーションでも注目を集め、日本を代表する企業であるSONY、サントリー、ANAなどの宣伝広告ではイメージモデルも務める。
2017年、明治座にて脚本家デビュー。2019年、日本のトップフォトグラファー腰塚光晃氏プロデュースの長野県戸隠で開催されている“もののけ祭り”にて大トリを務め、戸隠の岩戸伝説になぞらえた【岩戸隠鈿女三番叟】を発表。
2020年世界的トップフォトグラファーのマリオテスティーノ氏の個展や世界的ファッションショー東京コレクションでは日本の美を象徴する世界観でモデルとして抜擢される。
2022年秋には芸歴30周年を迎え、京都府京丹後市にて世界で活躍する一流アーティストを集め、新たに2本の新作舞踊を発表予定。
舞踊活動のほか、脚本家、演出家としても活動。
精神性の高い表現力と、古典を重んじた繊細かつ伸びやかな技術でジャンルを超えた活躍を見せ、日本文化や伝統芸術の伝承と発展に尽力する。

出演者

WREIKO

Chii

Naru

norika

YU-NA

千祥

ほか

音楽

鈴木昭男

佐藤健作

Julia Shortreed

佐藤亜美

川村旭芳

野中久美子

ほか

◆新作舞踊　一・有涯　～丹後七姫より ― 覚悟の三姫 ― ～

丹後地方の伝承に登場する代表的な七人の姫君、“丹後七姫”より『静御前』『細川ガラシャ』『羽衣天女』の三姫を題材とした新作舞踊

『静御前』は平安時代末期、網野町磯で生まれその美貌と才芸から白拍子として名を馳せた。
のちに源義経に見初められ妾となるが、源平合戦後、兄の源頼朝と義経が対立すると静は捕らえられ鎌倉に送られる。
本作では、鎌倉に引っ立てられた静御前が、四面楚歌の中で命をも顧みず気丈にも義経への想いを語り、また頼朝から「お腹の子が女子であれば生かす、男子であれば殺す」と酷い宣告を告げられた悲劇と、それでもなお義経を信じた静の覚悟を描く。

『細川ガラシャ』は本名を玉（たま）といい、明智光秀の三女として産まれた。
織田信長の発案により細川忠興に嫁いだが、後に本能寺の変により「謀叛者の娘」となった玉は、それにより丹後の味土野へ幽閉される。後にカトリックの教えに心を惹かれた玉は洗礼を受け、ラテン語で“神の恵み”を意味する“ガラシャ”を洗礼名に授かり、細川ガラシャと名乗る。
本作では、最期の時に味土野で過ごした時を思い懐かしみ、壮絶な自害を迎えるガラシャの覚悟を描く。

『羽衣天女』は日本最古の羽衣伝説、丹後風土記（715年）に登場する伝説の存在。
丹後の磯砂山の頂上に真奈井という池があり、この池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていると老夫が一人の天女の衣を隠し、無理に連れて帰った。
後に天女は万病にきくという酒を作り出したが、天女の力で家が栄えると老夫は天女を追い出してしまう。泣く泣く荒山に辿り着いた天女はその後を奈具の村で過ごしたという。
この天女とは豊受大神のことであるとされ、弥栄町の奈具神社、峰山町の比沼麻奈為神社で祀られている。
本作では、人の心に翻弄され裏切られた天女がそれでもなお神として人々を導く尊き覚悟の姿を描く。

◆トークショー【天と地を結ぶ、メディアアートとしての舞の可能性】

谷崎テトラ氏

谷崎テトラ（たにざき てとら）
京都芸術大学客員教授／構成作家／メディアプロデューサー／サウンドデザイナー
1964年生まれ。環境・アート・精神文化などをテーマにしたTV、ラジオ番組、出版を企画・構成するかたわら、新しい価値観（パラダイムシフト）や、持続可能な社会の転換（ワールドシフト）の発信者&コーディネーターとして活動中。

この度のトークショーでは、【天と地を結ぶ、メディアアートとしての舞の可能性】と題し、花柳凜という舞踊家の芸術について、そして日本の精神文化を土台に、日本芸術における新たな表現の可能性を紐解く。

◆新作舞踊劇　一・祈日月物語

太古の『祈り』を復活させる新作舞踊劇

太古の時代、丹後の地は“タニワの国“と呼ばれる王国であった。
タニワの国には、日照りが続けば舞って雨を呼び、手をかざせば病を癒す不思議な力を持つヨリ姫と呼ばれる女がいた。
人々は美しく不思議な力を持つヨリ姫を慕い頼りながらも、目に見えぬその力に怯えもした。
ある時タニワの国で豪雨が続き、凄まじい洪水が村を襲った。作物も育たず飢えていく人々に焦慮した村の長たちは、ヨリ姫にこの国で一番高い山に登り日乞いの儀を行うよう命じた。
しかし激しい豪雨の中1人山に登る儀式は、日乞いとは名ばかりの人身御供であることは一目瞭然であった。
それを知ってもなお健気に命を受け入れ1人山に登ったヨリ姫が見たモノは、雷鳴轟き黒雲立ち込める山に蠢く恐ろしい邪神達の姿であった…。
「雨も風も、全ては天の思し召しにございましょう…」
多くの民を救うため、自らの命を懸けた姫の物語。

主催　日本舞踊「花柳凜京丹後市公演」実行委員会
後援　京都府　一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）　京丹後市　京丹後市教育委員会